

令和3年度 家政学部 後期授業評価アンケート結果の講評

講 評 者 (学科長/専攻主任)

ライフスタイル学科長/家政学専攻長：丹羽誠次郎

管理栄養学科長/管理栄養士専攻長：竹村ひとみ

こどもの生活学科長/こどもの生活専攻長：加藤万也

〔1〕アンケート実施について

後期授業 14～15 週目に家政学部全科目について授業評価アンケートを実施した。

アンケート回収率については下記の通りであった。

	回答率 (%)	回答率 (最高) (%)	回答率 (最低) (%)
家政学部	79.9%	100%	0% (未実施)
ライフスタイル学科/ 家政学専攻	77.7%	100%	0% (未実施)
管理栄養学科/管理栄 養士専攻	83.8%	100%	41.9%
こどもの生活学科/こ どもの生活専攻	77.7%	100%	46.7%

〔2〕授業における教員に対する評価

〔質問項目〕

質問1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問5. 教員は、学生が社会人基礎力を活用できる授業を展開した。

質問6. 教員は、シラバスに沿って学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問8. 教員が作成した予習・本時・復習シート (PCR シート) は、学修内容の理解に役立った。

質問1-8の選択肢：「5 強く思う」「4 やや思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

〔アンケート結果〕

	家政学部	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問1	4.41	4.24	4.46	4.44
質問2	4.25	3.99	4.32	4.32
質問3	4.29	4.18	4.32	4.32
質問4	4.28	4.10	4.33	4.34
質問5	4.30	4.15	4.38	4.34
質問6	4.33	4.15	4.35	4.38
質問7	4.29	4.05	4.25	4.34
質問8	4.18	3.94	4.24	4.30

質問1～8 授業における教員に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「授業における教員に対する評価」は概ね4.0ポイント前後を得ており、全質問項目において2021年度前期の結果よりもポイントが上昇しているが、依然として他学科／専攻の平均値と比較するとどの項目においても評価が低く、更なる授業改善の必要がある。ただし、卒業時のアンケート（別アンケート）では、家政学専攻のカリキュラム（教育課程）に対する満足度が、他専攻よりも大きく上回っており、4年間の学修全体を振り返った際にはまた違った結果となっていることを付言しておく。

質問項目別ではとくに質問8「教員が作成した予習・本時・復習シート（PCRシート）は、学修内容の理解に役立った」は、最もポイントが低く、これは質問9以降の「学生自身の学修に対する評価について」の結果にも関連して、予習・本時・復習シートの更なる見直しを学科／専攻教員に求めたい。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

教員に対する評価は、4.2ポイント以上と概ね良好であったと考えられる。中でも、質問1「授業時間分の学修内容を実施」の評価が最も高く、大半の学科教員が実践していると言える。一方で、質問7「成績評価基準の明確化」と質問8「PCRシートが学修内容の理解に役立った」の項目は、今後さらなる検討、改善の余地があると考えられる。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

教員に対する評価では、各質問の平均で4.3ポイントを上回っており、概ね良好であったと判断できる。この要因は、こどもの生活学科／専攻には学校教員経験者が多く、学生の理解に関して確認を常に取りうる習慣があることに由来すると考えている。また、質問8の「予習・復習」に関する数値が低いことから、全教員が予習・復習に対してさらに深い意識を持つようにすることが重要であると感じた。

〔3〕学生自身の学修に対する評価について

9. あなたは、予習・本時・復習（PCRシート）に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。
10. あなたは、毎週シラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。
11. あなたは、毎週シラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。
12. あなたは、予習をすることで学修内容への理解が深まった。
13. あなたは、復習をすることで学修内容への理解が深まった。
14. あなたは、この科目に対して予習（事前学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度）で教えてください。
15. あなたは、この科目に対して復習（事後学修）時間をどのくらい費やしましたか。平均した1回当たりのおよその時間（10分単位程度）で教えてください。
16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。
17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。
18. 教員からの学修支援に満足している。
- 9-13,16-18の選択肢：「5強く思う」「4やや思う」「3どちらともいえない」「2あまりそう思わない」「1全くそう思わない」

★14,15の回答：記述式（数値入力）

〔アンケート結果〕

	家政学部	ライフスタイル学科/ 家政学専攻	管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	こどもの生活学科/ こどもの生活専攻
質問 9	4.12	3.83	4.24	4.22
質問 10	4.02	3.64	4.16	4.13
質問 11	4.05	3.71	4.19	4.13
質問 12	4.12	3.80	4.23	4.19
質問 13	4.16	3.88	4.26	4.24
質問 14	46.55	42.59	43.87	45.21
質問 15	47.77	42.14	54.96	46.24
質問 16	4.15	3.95	4.13	4.26
質問 17	4.25	4.07	4.24	4.34
質問 18	4.25	4.07	4.24	4.34

家政学部：家政学開講科目の全科目（共通科目＋専門科目）

ライフスタイル学科/家政学専攻：専門科目

管理栄養学科/管理栄養士専攻：専門科目

こどもの生活学科/こどもの生活専攻：専門科目

質問 9～18 学生自身の学修に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

「学生自身の学修に対する評価について」も「授業における教員に対する評価」同様、すべての項目において3学科／専攻中、最低のポイントにとどまっている。予習・復習に要している時間も、2021年度前期の予習・復習計45.6分から84.7分へと大幅に改善しているもののシラバスで示している時間に足りていない。予習・本時・復習シートの見直しとともに、授業内でのシラバスの活用を積極的に行い、15週全体にわたる学修の見通しのもとに、予習・復習に取り組めるよう教員側からの指示、指導を徹底する必要がある。ライフスタイル学科／家政学専攻は、他の2学科／専攻と異なり、資格取得をベースとしたカリキュラム構成ではない。そのため、個々の科目に対する受講目的・目標を明確にし、授業に臨むことができるような更なる工夫を検討しなければならない。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

学生自身の学修に対する評価は、全ての質問項目で4ポイントを上回った。質問12、13の「予習・復習による学修内容の理解」の評価は3学科で最も高く、予復習の意義と重要性を理解していると思われる。一方で、質問14、15の「予習・復習の平均時間」は十分とは言えない。一因として、学生間の自己学修の差が大きいことが考えられ、予復習の習慣が十分に身につけていない学生に対する早期からの働きかけが必要である。また、毎週シラバスを確認して授業に臨むこと、到達目標を意識した学修の重要性についても周知していく必要がある。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

学生自身の学修に対する評価については、ほとんどの項目で学部平均を上回っていた点では満足できるものであるが、予習・復習の時間量に関してはまだまだ伸長できると考えられる。そのため、予習・復習についての意欲を引き起こすこととともに、どのようなことを行うかを具体的に示すことが重要である。さらに、予習・復習の習慣を確実に身につけさせることも今後の学修において大切だと考えている。特に質問15の数値が示すとおり、質問14の予習は行う（課題の発表のための時間と推察する）が、復習に関しての時間が短いので、将来の公務員試験や教員採用試験を見通した上で、授業後の復習の重要性を学生に明確に伝える必要があると認識している。

〔4 学修行動について〕

質問 19. 本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか。（複数回答あり）

★19 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

〔アンケート結果〕

	発揮できなかった能力			
家政学部	計画力(24.8%)	ストレスコントロール力(24.5%)	働きかけ力(21.1%)	創造力(20.9%)
ライフスタイル学科/ 家政学専攻	計画力(25.8%)	課題発見力(24.2%)	働きかけ力(24.1%)	ストレスコントロール力(23.6%)
管理栄養学科/ 管理栄養士専攻	計画力(23.2%)	ストレスコントロール力(22.7%)	創造力(20.8%)	柔軟性(19.5%)
こどもの生活学科/ こどもの生活専攻	ストレスコントロール力(29.3%)	計画力(27.5%)	働きかけ力(22.6%)	実行力(22.4%)

家政学部：家政学開講科目の全科目（共通科目＋専門科目）

ライフスタイル学科/家政学専攻：専門科目

管理栄養学科/管理栄養士専攻：専門科目

こどもの生活学科/こどもの生活専攻：専門科目

質問 19 学生自身の学修行動に対する評価について

〔ライフスタイル学科/家政学専攻〕

質問 19「本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか」の回答結果については、計画力(25.8%)、課題発見力(24.2%)、働きかけ力(24.1%)、ストレスコントロール力(23.6%)がほぼ同様の数値で並んでいる。これは、学生同士で協力して自由度や難易度の高い課題に取り組まなければならない状況が設定されていることとも関係していると考えられ、学生たちがその困難を受け止めた結果としてみれば、肯定的に捉えることもできよう。

〔管理栄養学科/管理栄養士専攻〕

発揮できなかった能力要素として、計画力、ストレスコントロール力が上位となった。各々23.2%、22.7%を占め、4~5人に1人が計画力とストレスコントロール力を挙げたことになる。毎週、各科目の課題を提示された期限までに提出するためには、優先順位を決め計画的に取り組むことが必要である。個人レベルのみならず、グループワークなど協同して取り組む授業や課題も複数ある中で、どのように進めていくべきか、常に意識して取り組むことが、社会で求められる能力の育成に繋がると考える。

〔こどもの生活学科/こどもの生活専攻〕

発揮できなかった能力について「ストレスコントロール力」が第1位であることには驚きを禁じ得ない。これは捉え方として考えられるのが、ひとつはストレスコントロールができずに「非常にストレスフルだった」と捉える見方と、もうひとつは「ほとんどストレスがない状況で学修を楽しめた」ために、コントロール力を発揮する必要がなかったと捉える見方である。学科の傾向から考えると、後者ではないかと推測する

が、「最も発揮した能力」というポジティブな見方の質問に変えることで、こうした問題は回避できるのではないかと考える。また、全項目の中で根幹となる「主体性」について低位であるということから、人間性の育成という観点より、さらに集中的に「主体性」の育成を目指す必要があると考えている。

(2022.4.19)